

様式第6号（第18条関係）

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和7年3月26日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市田野町甲2818番地
名 称	田野まちづくり協議会
代 表 者 の 氏 名	松浦 繁盛
電 話 番 号	0985-69-0515

令和6年3月29日付で交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第18条第1項の規定により、関係書類を添えて実績報告書を提出します。

添付書類

- (イ) 事業実施報告書
- (ロ) 収支決算書又は収支決算見込書
- (ハ) 事業別収支計算書
- (ニ) 積立金管理状況報告書
- (ホ) その他

令和6年度 事業実施報告・収支決算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

1 総括

令和6年度は、夏の異常気象や干ばつ、台風や地震などの自然災害、そして新型コロナやインフルエンザの蔓延により、市民生活の安寧が大きく脅かされた1年となった。

そのような中、田野地域および本協議会のイベントは一部の悪天候による中止を除いて、ほぼ復活し、活況を取り戻すことができた。

特記すべきは、“駅前イルミネーション”の設営に、初めて企業参加が得られた結果、量・質とも大きくバージョンアップして多くの市民から感動の声が寄せられた。また、リニューアルしたホームページが完成し、LINEを絡めた『情報発信型』の基礎作りに着手できた。

各部会ともボランティア活動の課題を抱えながらも、“まちづくり”を一歩一歩進めて来ている。

2 収支決算

(1) 収入の部

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差	備 考
地域コミュニティ活動交付金	2,861,000	2,861,000	0	
繰越金	1,454,338	1,454,338	0	
寄付金	0	110,000	110,000	田中漬物・桜屋旅館
負担金	15,000	51,600	36,600	参加者負担金
売上金	0		0	
自己資金	662	1,114	452	
合 計	4,331,000	4,478,052	147,052	

(2) 支出の部

分野	事 業 名	実施年数	予 算	決 算	差	備 考
防	防犯・防災事業	16年目	241,000	209,963	▲ 31,037	
福	健康ふくしまつり共催事業	16年目	40,000	600	▲ 39,400	
福	福祉共催事業（地域ふれあい交流）	15年目	110,000	86,403	▲ 23,597	
福	高齢者・認知症サポート支援事業	7年目	20,000	8,160	▲ 11,840	
福	介護予防事業	1年目	40,000	28,000	▲ 12,000	
環	いこいの里山づくり事業	16年目	205,000	175,896	▲ 29,104	
再	鰐塚山山開き事業	13年目	25,000	14,754	▲ 10,246	
再	田野しっちゃが祭り活性化事業	12年目	243,000	169,965	▲ 73,035	
再	田野駅活性化事業	14年目	420,000	412,963	▲ 7,037	
再	特産品開発事業	13年目	75,000	13,075	▲ 61,925	
再	田野マルシェ事業	8年目	360,000	194,446	▲ 165,554	
健	イベント共催事業	16年目	50,000	1,567	▲ 48,433	
教	世代間交流事業	10年目	121,000	62,824	▲ 58,176	
教	寺子屋事業	9年目	245,000	214,611	▲ 30,389	
他	広報事業	16年目	757,000	697,457	▲ 59,543	
他	フォトカレンダー事業	14年目	129,000	127,640	▲ 1,360	
他	リーダー育成事業	2年目	100,000	123,070	23,070	
他	まちづくり協議会運営事業	16年目	1,150,000	1,107,971	▲ 42,029	
合 計			4,331,000	3,649,365	▲ 681,635	
繰 越 金				828,687		
総 計			4,331,000	4,478,052	147,052	

3 実施報告

[1] 防犯・防災に係る事業

事業名	防犯・防災事業	実施年数	16年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 基本項目 <u>2. 安心安全なまちづくり</u> ◎防犯パトロール														
目的 (期待される効果)	地域住民が安心して暮らせる安全なまちづくりのため、青色パトロール・学童見守りの活動を通じて、犯罪を抑制し、子どもたちの健全育成に努める。地域住民が安心して暮らせる安心・安全なまちづくりを目指す。														
事業内容・手段	(1) 青パト隊員26名による防犯パトロールを週4日（月・火・木・金）実施した。（原則2名体制） (2) 見守り隊員17名による学童見守りを行った。 ※毎週月曜日～金曜日 午前7時15分～7時50分 ※2名体制で大石百貨店前交差点で実施 ※見守り隊員以外に、PTAも参加協力														
事業費	209,963円														
対象者	地域住民・小中高学生														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>防犯パトロール</td><td>284人</td><td>334人</td></tr><tr><td>学童見守り</td><td>404人</td><td>398人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>688人</td><td>732人</td></tr></table> ※延べ人数			年 度	令和6年度	令和5年度	防犯パトロール	284人	334人	学童見守り	404人	398人	合 計	688人	732人
年 度	令和6年度	令和5年度													
防犯パトロール	284人	334人													
学童見守り	404人	398人													
合 計	688人	732人													
住民の声（アンケートの結果等）	・ 青パト、子どもの見守り活動を通して地域住民が安心して暮らせている。 ・ 大石商店での見守り活動が、朝の「日常風景」として車通勤者に温かく受け入れられている。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	毎日見守り活動を行うことで、地域で地域の安全を守っているという認識ができています。	広報	⑤事業の周知	B	B	・ 田野紙 ・ SNS ・ 小学校PTAにも継続的に協力要請している。
	②住民の参加	A	A	高齢化による人数減少もあるが、新たな加入者もあり、認識の高さを感じる。		事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域の安心安全のため、妥当である。			⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	A	小学校PTAや自治会の参加が継続しており、連携がうまくいっている。		事業継続の必要性			有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ 昨年に続き、最寄りの自治会の新たな参加が得られたことにより、高齢化による減員の補填が得られた。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2]地域・福祉に係る事業

事業名	健康ふくしま祭り共催事業	実施年数	16年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 基本項目 3. 健康福祉の充実 ◎健康ふくしま祭りでの啓発 ◎防災意識の啓発														
目的 (期待される効果)	各種団体と連携して、健康ふくしま祭り時にまちづくり協議会ブース(防災コーナー)を設け、安心・安全なまちづくりの推進を図る。 防災意識の薄い町民に、住民一人一人がいざという時の助け合いの心を共有する。														
事業内容・手段	(1) たの健康ふくしま祭り第一回実行委員会 5月22日(水) 内 容：①開催概要(案)・収支予算(案)について ②たの健康ふくしま祭り実施内容について (2) たの健康ふくしま祭り第二回実行委員会 7月17日(水) 内 容：令和6年度健康ふくしま祭りの詳細の打合せ (3) たの健康ふくしま祭り第三回実行委員会 10月30日(水) 内 容：令和6年度の健康ふくしま祭りの詳細の決定 (4) たの健康ふくしま祭り 開催 ・開催日：11月17日(日) 場所：ふれあいセンター ※当協議会は宮崎県環境情報センターの協力を得て、手作りの「軽トラ気象実験教室」を実施 (5) たの健康ふくしま祭り第四回実行委員会 12月11日(水) 内 容：令和6年度健康ふくしま祭りの報告・収支報告・反省														
事業費	600円														
対象者	地域住民・健康ふくしま祭りの参加者														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>500人</td><td>500人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>1人</td><td>3人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>501人</td><td>503人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	500人	500人	スタッフ	1人	3人	合 計	501人	503人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	500人	500人													
スタッフ	1人	3人													
合 計	501人	503人													
住民の声 (アンケートの結果等)	・軽トラ実験教室をまじかに観て、地震や津波、竜巻がどうやって発生するか、などの自然の仕組みを勉強することができた。とても分かりやすかった。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	地域の各種団体が参加し、地域最大の福祉行事である。	広報	⑤事業の周知	B	B	・田野紙 ・新聞チラシ
	②住民の参加	A	B	関連団体・幼稚園・保育園の参加により保護者が幅広く参加	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	見学者に対して、地震等の自然災害に対する危機意識を提起する良い機会となった。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	各種団体と連携して実施することで、事業展開にもつながる。		⑦住民の満足度	A	A	見学した人には楽しく勉強できたと好評であった。
	④各種団体との連携	A	A	社協・市・児童センター・保育会・民生委員・学校など、多くの団体が参加している。	事業継続の必要性		有 ・ 無		
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・今回は新しい試みとして、『軽トラ気象実験教室』による自然災害の“見える化”を図り、自然のしくみを学ぶ機会を提供することができた。							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）> <意見への対応>						対応	未 ・ 済	
	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）> <意見への対応>						対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2]地域・福祉に係る事業

事業名	福祉共催事業（地域ふれあい交流）	実施年数	15年目												
事業期間	開始：平成22年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	<u>基本目標</u> 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち <u>基本項目</u> <u>1. 三世代交流</u> ◎高齢者の集う場所を設け、世代間交流を図る <u>3. 健康福祉の充実</u> ◎世代間交流を図り、思いやりのある福祉のまちをつくる														
目的 (期待される効果)	家にこもりがちな高齢者の集う場所を設けることにより、地域のニーズ把握や高齢者相互及び世代間の交流を図り、思いやりのある福祉のまちをつくる。														
事業内容・手段	(1) 第1回田野地域ふれあい交流実行委員会 会 場：田野地区交流センター 実施日：令和6年7月23日（火） 内 容：令和6年度ふれあい交流の開催について (2) 第2回田野地区ふれあい交流実行委員会 会 場：田野地域交流センター 実施日：令和6年9月5日（木） 内 容：令和6年度ふれあい交流の詳細について検討 (3) 田野地域ふれあい交流 開催 会 場：田野地域交流センター 実施日：令和6年9月16日（月） 内 容：町内75歳以上の高齢者を対象に交流会を開催。当協議会は「写真館」を設営し、希望者に写真を撮影、帰りに渡す。 (4) 第3回田野地域ふれあい交流実行委員会 会 場：田野地域交流センター 実施日：令和6年11月7日(木) 内 容：令和6年度ふれあい交流の実績報告について														
事業費	86,403円														
対象者	地域住民（75歳以上の高齢者）														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>102人</td><td>200人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>153人</td><td>50人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>255人</td><td>250人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	102人	200人	スタッフ	153人	50人	合 計	255人	250人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	102人	200人													
スタッフ	153人	50人													
合 計	255人	250人													
住民の声（アンケートの結果等）	・多くの高齢者が喜んで写真館に来場され、思い出作りにグループや友だちとの集合写真を撮られて大いに喜んで頂いた。また、撮影した写真を「即日お渡し」したことも好評であった。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	田野町で敬老の日 に開催される高齢 者の交流の場とし て浸透している。	広報	⑤事業の周知	B	B	・ 田野紙 ・ 自治会回覧 ・ 新聞チラシ
	②住民の参加	B	B	参加が期待ほどな かった。	事業 の 効果	⑥課題解決へ の作用	B	B	長年続いている行 事で、高齢者の交 流の場となってい る。
効果的・ 効率的な 取組み	③地域まちづ くり推進委員 会の取組とし ての妥当性	A	A	まちづくり写真館 を運営し、高齢者 に喜ばれている。		⑦住民の満足 度	B	B	毎年、参加した方 にはステージ、写 真館、抽選会と楽 しみにされてい る。
	④各種団体と の連携	A	A	田野町地域婦人連 絡協議会・自治 会・民生委員と連 携している。	事業継続の必要性			有 ・ 無	
良かった点・ 改善点等		<良かった点や改善した点等>							
地域協議会から の意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>				対応		未 ・ 済	
		<意見への対応>							
地域協議会から の意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>				対応		未 ・ 済	
		<意見への対応>							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。
 その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、
 次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2] 地域・福祉に係る事業

事業名	高齢者・認知症サポート支援事業	実施年数	7年目															
事業期間	開始：平成30年度	終了：	年度															
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち <u>基本項目</u> <u>2. 安心安全なまちづくり</u> ◎声かけ見守り <u>3. 健康福祉の充実</u> ◎認知症になっても地域で安全に暮らせるような福祉の充実																	
目 的 (期待される効果)	各種団体と連携して、認知症になっても住み慣れたまちで暮らすことができるようなまちづくりを目指す。																	
事業内容・手段	・認知症見守り声掛け模擬訓練（包括ケア推進委員会との共催） ①実施日：令和6年11月10日(日) 対 象：二ツ山地区 ②実施日：令和6年12月 1日(日) 対 象：上井倉地区 ※実施内容：認知症について基本的な知識や対応の仕方を学んだ後 その知識を生かし、設定されたコース内での認知症役の人 に「声掛け、通報」までの模擬訓練を実践した。																	
事業費	8,160円																	
対 象 者	二ツ山・上井倉地区自治会、その他地域住民																	
参加者数 (内訳)	<table><tr><td colspan="3">(2) 声かけ見守り模擬訓練</td></tr><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加</td><td>66人</td><td>60人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>41人</td><td>24人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>(二回合計) 107人</td><td>(一回) 84人</td></tr></table>			(2) 声かけ見守り模擬訓練			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加	66人	60人	スタッフ	41人	24人	合 計	(二回合計) 107人	(一回) 84人
(2) 声かけ見守り模擬訓練																		
年 度	令和6年度	令和5年度																
一般参加	66人	60人																
スタッフ	41人	24人																
合 計	(二回合計) 107人	(一回) 84人																
住民の声（アンケートの結果等）	・認知症の方に接する時の注意点や心構えを学べた。 ・声かけの難しさや警察への伝え方などを知ることができた。 ・今回も参加者の年齢層が高いため、若い人の参加が望まれる。																	

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	認知症の方が地域で暮らし続けられるように、地域で見守ることは重要である。	広報	⑤事業の周知	A	A	自治会及び支援センター関係者他を通じて連絡。
	②住民の参加	A	A	「模擬訓練」を実施し、仏堂園地区の住民の参加を得られた。			A	A	高齢化社会における、認知症への理解は重要である。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	高齢化社会を迎えるにあたり、安心安全なまちづくりを進めるために重要である。			事業の効果	⑦住民の満足度	A
	④各種団体との連携	A	A	包括支援センター、わにつか荘との連携ができた。	事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
地域協議会からの意見への対応	＜意見への対応＞						対応		未 ・ 済
							対応		未 ・ 済
	＜地域協議会からの意見（平成 年 月 ・ ）＞						対応		未 ・ 済
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2]地域・福祉に係る事業

事業名	介護予防事業	実施年数	1年目												
事業期間	開始：令和6年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち <u>基本項目</u> <u>2. 安心安全なまちづくり</u> ◎中高齢者への健康的な暮らしをサポート <u>3. 健康福祉の充実</u> ◎無理のない、効率的な健康体操を通して健康福祉の充実														
目的 (期待される効果)	関係団体と連携して、各地区で活動しているサロンを訪問。健康体操などを実施して、介護予防促進を図り、高齢者が家庭や社会でいきいきと暮らせるような環境づくりを行う														
事業内容・手段	◎活動実績（実施日・名称・実施場所） 4/24 あずま会(東地区公民館) 5/15 長寿会(仏堂園公民館) 6/27 むつみ会(中央地区) 7/17 茶の実北会(北地区) 9/25 さくら会(東地区) 10/16 すずらんの会(北地区) 2/12 親睦会(南地区) 3/5 田野しも会(中央地区)														
事業費	28,000円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>156人</td><td>—</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>31人</td><td>—</td></tr><tr><td>合 計</td><td>187人</td><td>—</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	156人	—	スタッフ	31人	—	合 計	187人	—
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	156人	—													
スタッフ	31人	—													
合 計	187人	—													
住民の声（アンケートの結果等）	・健康体操や人とのふれあいで心身共にリフレッシュできた、久しぶりに横の繋がりが出来て楽しかった、と好評。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	-	益々高齢化社会となり、地域や関係団体から強く求められている	広報	⑤事業の周知	B	-	民生委員、さんさんクラブから連絡
	②住民の参加	A	-	関連団体の参加を得られている	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	-	スタッフや資金の不足
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	-	各種団体と連携して実施することで、事業展開にもつながる。		⑦住民の満足度	A	-	参加者には充実した時間を過ごせたと好評
	④各種団体との連携	A	-	各地区の関係団体と連携して開催。		事業継続の必要性			
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未 ・ 済	
	<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未 ・ 済	
	<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『☒』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『☐』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[3]環境に係る事業

事業名	いこいの里山づくり事業	実施年数	16年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 自然環境と産業の調和したまち <u>基本項目</u> 4. 豊かな自然と共生するまち ◎いこいの里山事業の再構築														
目 的 (期待される効果)	環境にやさしいまちづくりを推進し、次世代を担う子どもたちに豊かな自然を残すため、環境保全活動の取り組みを市民に広めていく。														
事業内容・手段	(1) 前平森林公園（新ひむかの森公園）の整備 会 場：前平森林公園周辺 実施日：毎月第1日曜日（8時～14時）12回/年 内 容：草刈り・枝おろし・公園入口及び道路脇の整備 (2) 一本桜植栽 会 場：前平森林公園周辺 実施日：令和7年2月26日（水） 内 容：田野中第78回卒業生代表3人による桜の植栽														
事業費	175,896円														
対 象 者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>34人</td><td>15人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>110人</td><td>111人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>144人</td><td>126人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	34人	15人	スタッフ	110人	111人	合 計	144人	126人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	34人	15人													
スタッフ	110人	111人													
合 計	144人	126人													
住民の声（アンケートの結果等）	・ 田野中学校全校による“前平山遠足”が二年目となり、その存在が生徒に広く周知され、生徒にもとても喜ばれている。 ・ 「桜の名所」として認知度も上がり、花見に来る人が増えた。 ・ 田野中卒業生による記念植樹が10年目となり、卒業生の思い出の場所となっている。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	いこいの場として今後も継続して整備していく必要あり。	広報	⑤事業の周知	B	B	・ 田野紙 ・ SNS
	②住民の参加	B	B	後半にかけて新たなメンバーが加わり、徐々にではあるが、参加数が増えてきてる。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	B	田野中学校のお別れ遠足として恒例化。その存在と価値が高く評価された。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	いこいの里山として、トイレ、東屋、駐車場など整備し、徐々に認知されつつあるので継続していきたい。		⑦住民の満足度	B	B	ウォーキングする人や、散策・花見する人が増えて来ている。
	④各種団体との連携	B	B	日本山岳会宮崎支部の他、田野中学校との連携を深められた。		事業継続の必要性			有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ 3月に田野中学生の遠足行事が実施され、里山の存在を広く周知できた。 ・ 今年度も自然環境部会への新入会員や協力会員が徐々に増え始め、除草作業も活気が出て来た。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4] 地域再生に係る事業

事業名	鰐塚山山開き事業	実施年数	13年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 自然環境と産業の調和したまち <u>基本項目</u> <u>4. 豊かな自然と共生するまち</u> ◎わにつか溪谷の再生へ向けてのもみじ植栽・山開きの拡充														
目 的 (期待される効果)	田野町の象徴である鰐塚山の自然を市民に広く知ってもらうため、安全祈願祭を実施する。														
事業内容・手段	◎山開き安全祈願祭 会 場：鰐塚山登山道入口 実施日：令和6年4月14日（日） 内 容：登山道入口で、安全祈願祭を行った。 ※諸般の事情により今年も縮小して開催														
事業費	14,754円														
対象者	地域住民・登山者														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>25人</td><td>20人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>5人</td><td>5人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>30人</td><td>25人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	25人	20人	スタッフ	5人	5人	合 計	30人	25人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	25人	20人													
スタッフ	5人	5人													
合 計	30人	25人													
住民の声（アンケートの結果等）	・毎年、安全祈願祭の後の鰐塚山登山が楽しみ。 ・「イワザクラを見るのが楽しみ」という登山者の声をよく聞く。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	田野を象徴する鰐塚山の山開きは、町内外から望まれている。	広報	⑤事業の周知	B	B	・田野紙 ・SNS	
	②住民の参加	B	B	今年も感染症対策を考慮して、縮小して実施した。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	登山は自己責任であるが、山開き安全祈願祭を実施することは重要である。	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	2005年の台風災害で途絶えていた山開きの実施は妥当であり、祈願祭の意義は大きい。		⑦住民の満足度	B	B	安全祈願祭のみの実施だが、この時期にイワザクラなどが見られ、登山客に好評である	
	④各種団体との連携	B	B	日本山岳会宮崎支部の会員が多く参加。	事業継続の必要性		有 ・ 無			
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞								
地域協議会からの意見への対応	＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済		
	＜地域協議会からの意見（平成 年 月 ・ ）＞						対応	未 ・ 済		
		＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4] 地域再生に係る事業

事業名	田野しっちゃんが祭り活性化事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：平成25年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち 基本項目 6. 行政に頼らない住民主導のスポーツ・文化活動の復活 ◎田野しっちゃんが祭														
目的 (期待される効果)	田野しっちゃんが祭り時にお化け屋敷を開催し、祭りを盛り上げることに より、まちの活性化を図る。また、まちづくり協議会活動の周知に努め る。														
事業内容・手段	(1)感染症がまだ収まっていないことや人員態勢に無理があることから、 昨年に引き続き、お化け屋敷に代わる「テント屋台」を実施。 ・会場：田野総合支所前 ・実施日：令和6年7月13日(土)・14日(日) ・内容：テント屋台を設営し、次の活動を実施 ①後藤館長制作による“謎の動物”の展示 ②子ども向けクジ引き ③プラ板体験														
事業費	169,965円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>令和6年度</td><td>クジ引き</td><td>プラ板</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>516人(昨年656人)</td><td>150人(昨年82人)</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>9人</td><td>24人</td></tr><tr><td>合計</td><td>(延べ人数)525人</td><td>(延べ人数)174人</td></tr></table>			令和6年度	クジ引き	プラ板	一般参加者	516人(昨年656人)	150人(昨年82人)	スタッフ	9人	24人	合計	(延べ人数)525人	(延べ人数)174人
令和6年度	クジ引き	プラ板													
一般参加者	516人(昨年656人)	150人(昨年82人)													
スタッフ	9人	24人													
合計	(延べ人数)525人	(延べ人数)174人													
住民の声(アン ケートの結果等)	・夏祭りの代表格である“田野しっちゃんが祭り”は田野町内外から多くの 親子連れ・子ども達が集まり、以前の活気を取り戻す事ができた。 ・二回目となるお化け屋台は多くの子ども達が来場し、大好評であった。 また、プラ板の『体験型』にも子ども達の注目が集まった。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	お化け屋敷への期待も大きいですが、未知の動物についても子ども達のニーズに十分答えていた。	広報	⑤事業の周知	A	A	・ 田野紙 ・ SNS ・ 広告チラシ
	②住民の参加	B	B	今年度はお化けの制作・展示のみの為、住民の参加は出来なかった。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	今年もコロナ対策を課題とし、お化け屋敷からお化け屋台に変更した。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まつり時のお化け屋敷あるいはお化け屋台は子どもたち人気の催しのため、妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	お化け屋敷ほどのスケールではなかったが、子ども達に十分なインパクトは与えられた。
	④各種団体との連携	B	B	児童センターとの連携		事業継続の必要性			有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ 今年も期待のお化け屋敷は中止となったが、それに代わるお化け屋台の他、新しい試みのプラ板体験が好評で、今後も「体験型」を模索して行きたい。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4] 地域再生に係る事業

事業名	田野駅活性化事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成23年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 自然環境と産業の調和したまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち <u>基本項目</u> <u>4. 豊かな自然と共生するまち</u> ◎冬限定の風物詩大根やぐらの継承 <u>6. 行政に頼らない住民主導のスポーツ・文化活動の復活</u> ◎ライトアップ														
目的 (期待される効果)	田野の玄関でもある田野駅をライトアップすることにより、地域活性化の機運を盛り上げる。														
事業内容・手段	(1) ライトアップ準備作業 実施日：令和6年6月～11月 内 容：イルミネーション点検・修理 (2) 田野駅ライトアップ 会 場：田野駅前広場 実施日：11月16日(土)：やぐら組立 11月17日(日)：イルミ飾付け 令和7年1月26日(日)：やぐら及びイルミ撤去 内 容：田野の冬の風物詩である大根やぐらを組立て、手作りの大根型のイルミネーションを飾り付ける。 また、大根やぐら内側に田野小学校6年生・七野小学校6年生・田野中学校3年生の将来の夢短冊を飾った。 今年は一社の企業参加を得られた事は画期的であった。 (3) 点灯式 会 場：田野駅前広場 実施日：令和6年12月1日(日) 内 容：田野小学校代表者及び清山市長による点灯式を行い、婦人会のふるまい、野外ライブを実施した。														
事業費	412,963円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>138人</td><td>110人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>78人</td><td>70人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>216人</td><td>180人</td></tr></table> ※スタッフは準備から片付までの延べ人数			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	138人	110人	スタッフ	78人	70人	合 計	216人	180人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	138人	110人													
スタッフ	78人	70人													
合 計	216人	180人													
住民の声 (アンケートの結果等)	・今年も、多くの小学生・中学生・一般の参加が得られ、町をあげてのイベントとして定着して来た。 ・今年はイルミネーションの範囲も質も向上したと好評。 ・作業後にふるまわれる婦人会のカレーやぜんざいが大好評。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	冬の風物詩「大根やぐら」に大根型のイルミを下げ、田野らしさの演出が期待されている。	事業の効果	⑤事業の周知	A	A	・田野紙 ・SNS ・報道各社へ取材依頼した結果、ニュースに取り上げられた。
	②住民の参加	A	A	小学生、中学生、田野総合支所、銀行そして地元住民の方の協力を得た。		⑥課題解決への作用	A	A	日本農業遺産認定を受け、大根やぐらを県内外にPRし、田野の活性化につなげる。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野らしい「大根やぐら」のライトアップをすることで、冬の風物詩としての存在が定着化して来た。		⑦住民の満足度	A	A	名実共に田野町の「冬の名所」の一つとして受け入れられている。
	④各種団体との連携	A	A	田野小・七野小・田野中・農家・農協・市役所・婦人会等と連携している。	事業継続の必要性			有 ・ 無	
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・今年始めて一般の企業参加を得られて、質・量・効率とも向上した。 ・マスコミ各社から取材、放映してもらい、町外からも来場者が増えた。							
地域協議会からの意見への対応	＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済	
	＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4 地域再生に係る事業]

事業名	特産品開発事業	実施年数	13年目
事業期間	開始：平成24年度	終了：	年度
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 自然環境と産業の調和したまち <u>基本項目</u> 4. 豊かな自然と共生するまち ◎事業者との連携による新特産物の開発		
目的 (期待される効果)	・生産者・飲食店と連携して特産品の開発に取り組む。 ・「干し野菜」と露地畑作の高度利用システムが日本農業遺産に認定されたことに伴い、干し野菜を使った特産品開発に取り組む。		
事業内容・手段	(1) “ふらいどはりはり”の商品化に向けて、宮崎県食品開発センターから開発・品質管理の指導継続中。 ・食べた時の食感や味、水分率(保存)を確認しながら、カット/冷凍/揚げ時間&温度を研究 (2) アンケート調査を実施 “フライドはりはり”の試食&アンケート(合同部会・部会)を通して、味覚・食感の好みについてリサーチを実施した。 水分活性(賞味期限)と好みを総合的に判断し、今後の方向性を決定して行く。		
事業費	13,075円		
対象者	地域住民、町外住民		
参加者数 (内訳)			
住民の声(アンケートの結果等)			

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	日本農業遺産の認定を受けたことにより、干し野菜を使った特産品の開発は重要。	広報	⑤事業の周知	B	B	・田野紙 ・SNS
	②住民の参加	B	B	特産品開発部に所属している飲食店・漬物生産会社が参加している。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	田野の特産品干し大根を使ったフライドはりはりの商品化を継続して実施する。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	長年継続して取り組んできたので、飲食店等との連携・協力をより強化していきたい。		⑦住民の満足度	B	B	フライドはりはりのリサーチを行い、多くの人に満足してもらえる商品作りを進める。
	④各種団体との連携	B	B	商品化に向け、まず品質管理面で県商品開発センターとの連携が必要。		事業継続の必要性			
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・フライドはりはりの開発・商品化に向けて、宮崎県食品開発センターから食品保存試験・品質管理そして商品化について丁寧な、具体的な指導を受けて、漸く本格始動の第一歩を歩むことができた。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未・済
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4 地域再生に係る事業]

事業名	田野マルシェ事業	実施年数	8年目												
事業期間	開始：平成29年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 自然環境と産業の調和したまち <u>基本項目</u> <u>5. 地域力の充実と発信</u> ◎住民同士のきずな強化														
目的 (期待される効果)	「干し大根やぐら」が日本農業遺産のシンボルに登録され、このイベントを通して田野町の特産品や伝統の魅力を広く伝え、老若男女が楽しく交流することを目的とする														
事業内容・手段	当協議会・日本農業遺産推進協議会、そして協力団体として婦人連絡協議会・JA女性部・干し大根生産者の協力を得て、実行委員会を立上げ、準備を進めて来たが、荒天の為『中止』となった。 (1) おTANOしみマルシェ 会 場：宮崎医療管理専門学校 グランド 実施日：令和6年9月22日(日) (2) 同時に、『健幸里山ウォーキング』 いずれも、入念な打合せを繰り返して来たが、残念ながら中止となった。														
事業費	194,446円														
対象者	地域住民、町外住民														
参加者数 (内訳)	(1) おTANOしみマルシェ <table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>-</td><td>2,500人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>-</td><td>30人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>-</td><td>2,530人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	-	2,500人	スタッフ	-	30人	合 計	-	2,530人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	-	2,500人													
スタッフ	-	30人													
合 計	-	2,530人													
住民の声 (アンケートの結果等)	・子ども達から「中止で残念」と言う声が多かった。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項			評価項目		評価		特記事項		
		本年度	前年度						本年度	前年度			
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	地域の若い世代からの要望が強く、マルシェを通して田野の魅力発信につながる。			広報	⑤事業の周知	A	A	・ 田野紙 ・ SNS ・ 新聞チラシ ・ ポスター掲示		
	②住民の参加	A	A	各種団体以外にも一般市民のボランティア参加が得られた。			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	各団体の役割、時間割、レイアウト等を効率的に対処できた。		
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	各種団体が所属しているため、まちづくり協議会が取組むのは妥当である。				⑦住民の満足度	A	A	宣伝効果が出て、近隣のみならず遠方からも来場があり、特にファミリー層から好評を得た。		
	④各種団体との連携	A	A	今回、田野もりあげる研究所、JA青年部など多くの団体と連携した。			事業継続の必要性				有 ・ 無		
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ 今年のおTANOしみマルシェは荒天により中止となったが、その為に休日を取っていたミャンマー人9人の『着物着付け』を急遽 実施。大変喜んでいた。											
地域協議会からの意見への対応	＜地域協議会からの意見（令和 年 月・事業報告）＞ ＜意見への対応＞								対応	未 ・ 済			
	＜地域協議会からの意見（令和 年 月・事業報告）＞ ＜意見への対応＞								対応	未 ・ 済			

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[5 健康づくりに係る事業]

事業名	イベント共催事業	実施年数	16年目															
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度																
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち 基本項目 6. 行政に頼らない住民主導のスポーツ・文化活動の復活 ◎太鼓フェスティバル ◎スポーツイベントの開催																	
目 的 (期待される効果)	マラソン大会を地区体育会と共催して行うことや太鼓フェスティバルにまち協ブースを出すことで、地域間交流・世代間交流を通し町の活性化を図る。 また、まちづくり協議会活動内容のPRにつなげる。																	
事業内容・手段	(1) 太鼓フェスティバル【中止】 会 場：田野運動公園 実施日：令和6年8月31日(土) 内 容：荒天の為、中止となった。 (2) マラソン大会 会 場：田野運動公園周辺 実施日：令和7年1月19日(日) 内 容：参加賞の景品詰め、前日準備、受付、立哨等を行った。																	
事業費	1, 567円																	
対 象 者	地域住民・町外住民																	
参加者数 (内訳)	<table><tr><td colspan="3">(2) マラソン大会</td></tr><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>371人</td><td>-</td></tr><tr><td>まち協スタッフ</td><td>11人</td><td>-</td></tr><tr><td>合 計</td><td>382人</td><td>-</td></tr></table>			(2) マラソン大会			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	371人	-	まち協スタッフ	11人	-	合 計	382人	-
(2) マラソン大会																		
年 度	令和6年度	令和5年度																
一般参加者	371人	-																
まち協スタッフ	11人	-																
合 計	382人	-																
住民の声 (アンケートの結果等)	・天候にも恵まれて、5年振りのマラソン大会が盛大に行われ、参加者や観客も大いに盛り上がった。ここ数年、体育会系のイベントがなかったため、田野町の活性化にはマラソン大会が不可欠との声が多かった。																	

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	町内外から多くの来場者があるイベントで、まちづくり協議会を広報することは重要である。	広報	⑤事業の周知	B	B	・田野紙 ・SNS ・新聞チラシ ・ホームページ
	②住民の参加	B	B	田野町を代表するビッグイベントの一つなので、多くの老若男女が参加した。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	まち協ブースの設置やユニフォーム着用でのスタッフ活動はまち協の周知活動に繋がっている。
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野の魅力発信、まちづくり活動の周知等、取組みとして妥当である。		⑦住民の満足度		B	B
	④各種団体との連携	B	B	太鼓フェスティバル・マラソン大会実行委員会に入っているため、多くの団体と連携している。	事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済
		＜意見への対応＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[6 地域教育に係る事業]

事業名	世代間交流事業	実施年数	10年目												
事業期間	開始：平成27年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 基本項目 1. <u>三世代交流</u> ◎町内に居住してる高齢者やさんさんクラブ会員を講師に招き、子どもたちと交流する														
目 的 (期待される効果)	田野町内の技術をもつ高齢者やさんさんクラブ会員を講師に招き、講話やもの作りを通じて交流を図り、高齢者の生きがい作りとともに子どもの豊かな心を育てる。														
事業内容・手段	会 場：田野児童センター (1) 人権DVD勉強会 実施日：令和6年7月16日・10月15日 (2) 人権擁護紙芝居 実施日：令和6年6月18日(火) (3) クリスマス会 実施日：令和6年12月14日(土) (4) プレーパーク 実施日：令和6年 5月11日・8月3日・8月10日・ 12月15日 令和7年 1月11日														
事業費	62,824円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>一般参加者</td><td>154人</td><td>113人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>41人</td><td>33人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>195人</td><td>146人</td></tr></table> ※人権紙芝居(3月19日)の人数は含んでいない。			年 度	令和6年度	令和5年度	一般参加者	154人	113人	スタッフ	41人	33人	合 計	195人	146人
年 度	令和6年度	令和5年度													
一般参加者	154人	113人													
スタッフ	41人	33人													
合 計	195人	146人													
住民の声(アンケートの結果等)	・講義を通して幅広い世代間交流ができ、親御さんにも喜ばれている。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	田野の方を講師に招き、子どもたちとの交流の場になっている。	広報	⑤事業の周知	B	B	児童館にて広報
	②住民の参加	B	B	児童センターで実施するため、未就学児童の親子や、子育て支援センターの子ども達の参加。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	子ども達も楽しんでおり、親子での参加も多く、地域との交流になっている。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野の技術を持った方と子ども達との交流は、取組む事業として妥当である。		⑦住民の満足度	B	B	参加した子ども達、親御さんには充分喜ばれていた。
	④各種団体との連携	B	B	児童センター、さんさんクラブと連携している。	事業継続の必要性				有 ・ 無
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済
		＜意見への対応＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[6 地域教育に係る事業]

事業名	寺子屋事業	実施年数	9年目															
事業期間	開始：平成28年度	終了： 年度																
地域魅力発信 プランとの関連	基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち 基本項目 1. 三世代交流 5. 地域力の充実と発信 8. 歴史・文化の啓発と伝承 ◎学校との連携 ◎子どもたちがいきいきと生活できる環境づくり																	
目 的 (期待される効果)	TANO寺子屋チームと一緒に中学生を対象に勉強を教えると共に、地域のボランティアや大学生と交流することで、孤独感を感じることなく、いきいきと生活できる環境づくりを行う。																	
事業内容・手段	(1) 寺子屋オリエンテーション 実施日：令和6年7月6日(土) 内 容：大学生(1名)・まちづくり協議会との打合せ (2) 寺子屋勉強会 会 場：田野児童センター 2階ホール 実施日：令和6年7月～令和7年2月 毎週土曜日 10時～12時 実施日：26回 内 容：中学生を対象の勉強会。 今年度は、講師として大学生の他、高校生、退職校長会の参加を得られた。																	
事業費	214,611円																	
対象者	地域住民																	
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>中学生</td><td>421人</td><td>251人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>71人</td><td>79人</td></tr><tr><td>大学生・高校生</td><td>96人</td><td>77人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>588人</td><td>407人</td></tr></table> ※退職校長会の延べ31人を講師には含んでいない。			年 度	令和6年度	令和5年度	中学生	421人	251人	スタッフ	71人	79人	大学生・高校生	96人	77人	合 計	588人	407人
年 度	令和6年度	令和5年度																
中学生	421人	251人																
スタッフ	71人	79人																
大学生・高校生	96人	77人																
合 計	588人	407人																
住民の声(アンケートの結果等)	・講師の大学生、高校生の親身に寄り添う教え方が生徒にも喜ばれており、塾とは異なる「寺子屋」らしい教育のあり方と評判も良い。																	

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	中学生の学力の低下を抑制するため、塾に通えないような子どもたちも学習する場を設けている。	広報	⑤事業の周知	A	A	・ 田野紙 ・ SNS ・ 中学校へチラシ配布
	②住民の参加	B	B	寺子屋の認知度も年々上がって来ており、スタッフとしてPTAの参加も得られている。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	大学生の指導の下、皆で学習することで、孤独を感じることなく楽しい学習に打ち込んでいる。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	TANO寺子屋チームとまち協スタッフとの連携が強化され、協力体制が構築されている。		⑦住民の満足度	A	A	クイズ方式で互いに教え合うなどの勉強法を工夫しており、子ども達は満足しているように見受けられる。
	④各種団体との連携	B	B	TANO寺子屋チームを中心に、大学・中学校と連携している。		事業継続の必要性			
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ 大学生や高校生、田野退職校長会の講師の方々と生徒の関係が学校では見られない程の“家族的・友好的”なものであった。							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済
		＜意見への対応＞							
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済
		＜意見への対応＞							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	広報事業	実施年数	16年目
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 自然環境と産業の調和したまち <u>基本項目</u> <u>5. 地域力の充実と発信</u> ◎田野紙を町内全戸配布することによる地域の情報発信		
目的 (期待される効果)	まちづくり協議会の取り組み、行事を広く住民に広報することにより、まちづくり協議会の認知度向上と取り組みへの参加を促すとともに、田野町の良いところの再確認を促す。		
事業内容・手段	(1) 田野紙の制作・ポスティングによる町域全戸配布(4,900戸) 実施日：3ヶ月毎に年4回発行(夏号・秋号・冬号・春号) 〈一面〉全面写真表紙(田野町内の四季を感じさせる風景) 〈二面〉教育子育て / 田野の話題の人・IUターンの人紹介 〈三面〉部会・関係団体紹介 / 催し物の紹介 / 田野史 〈四面〉掲示板 / お知らせ / クイズ ※学校・公共施設などへの配布 及び 支所・駅での掲示 ※Instagramによる情報発信 (2) ホームページの制作 実施日：4月から準備し、12月に完成、アップした。 ※更に、ビジネスラインを立ち上げ、情報発信型の基礎固めを実施		
事業費	697,457円		
対象者	地域住民		
参加者数 (内訳)	※田野町全世帯に配布(年4回) 4,900世帯		
住民の声(アンケートの結果等)	・長年田野に住んでいても知らないことが多く、毎回楽しみにしている。 ・IUターンの自分には、田野を知る大きな情報源となっています。 ・「田野の歴史」が分かって、懐かしいとか、始めて知ったとの意見が多い。		

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項			評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度						本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	自治会未加入世帯にもポストに届くため、田野町全域に情報発信できる。	広報	⑤事業の周知	A	A	自宅ポストに投函		
	②住民の参加	B	B	田野紙を見て問い合わせも増え、住民との交流の足掛かりとなっている。			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	町民に広く読んでもらえる広報誌を目指し、内容の充実、デザインの変更など、研究・努力している。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	町内全世帯配布なので、内容を更に充実させ、田野の情報を継続して発信することが重要である。	⑦住民の満足度	A			A	全戸配布であり、町内に浸透して来た。また、楽しみにしているとお声を多くもらっている。	
	④各種団体との連携	A	A	全世帯配布のため、各種団体より掲載依頼がある。また、情報を提供して頂くなど、多くの接点ができている。		事業継続の必要性			有 ・ 無		
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ “田野紙” はいつも話題が豊富、表紙の一面写真にインパクトがあるなどの意見が寄せられている。 ・ 多くの情報を網羅したホームページを新しく制作した。									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（令和元年5月・事業報告）＞						対応	未 ・ 済		
		＜意見への対応＞									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞						対応	未 ・ 済		
		＜意見への対応＞									

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	フォトカレンダー事業	実施年数	14年目									
事業期間	開始：平成23年度	終了： 年度										
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 自然環境と産業の調和したまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち <u>基本項目</u> <u>4. 豊かな自然と共生するまち</u> <u>5. 地域力の充実と発信</u> <u>8. 歴史・文化の啓発と伝承</u> ◎田野町内の豊かな自然や名所・旧跡等の写真を募集し、カレンダーにすることにより、田野の良いところの再確認を促す。											
目 的 (期待される効果)	田野を見つめ直す良い機会とするため、「田野」をテーマに写真を募集し、カレンダーを作成し配布する。											
事業内容・手段	(1) カレンダー作成 内 容：「田野」をテーマに写真を田野紙・SNS等で募集し、その中から優秀作品8点を選び、カレンダーを作成。 12月に自治会を通して配布を行った。 また、入賞者へ賞品の贈呈を行った。 ・写真応募締切：8月31日（木） ・印刷枚数：2,500枚											
事業費	127,640円											
対 象 者	地域住民・町外の希望者											
参加者数 (内訳)	<table><tr><td>年 度</td><td>令和6年度</td><td>令和5年度</td></tr><tr><td>応募点数</td><td>57点</td><td>71点</td></tr><tr><td>応募者人数</td><td>25人</td><td>33人</td></tr></table>			年 度	令和6年度	令和5年度	応募点数	57点	71点	応募者人数	25人	33人
年 度	令和6年度	令和5年度										
応募点数	57点	71点										
応募者人数	25人	33人										
住民の声（アンケートの結果等）	・田野町に永く住んでいても知らない所が多く、田野を再発見できて、毎年楽しみにしている。 ・田野町の四季折々が感じられて、我が家の室内インテリアにもなっている。											

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項			評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度						本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	配布後の反応、手ごたえで地域の方に求められていることが分かる。	事業の効果	広報	⑤事業の周知	A	A	・ 田野紙 ・ SNS ・ ポスター掲示	
	②住民の参加	B	B	毎年応募する方や新たにメールで応募する方など、幅広い層に広がって来ている。		⑥課題解決への作用	A	A	「田野」をテーマに、田野らしいカレンダー作成に取り組んだ。		
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野の魅力をフォトカレンダーで町内外へ発信することは、取組として妥当である。		⑦住民の満足度	A	A	自治会を通しての配布なので、自治会未加入の方も多く事務局に取りに見える。		
	④各種団体との連携	B	B	写真応募ポスターの掲示やカレンダー掲示を各種団体をお願いしている。	事業継続の必要性				有 ・ 無		
良かった点・改善点等		＜良かった点や改善した点等＞ ・ カレンダーの字が小さいとのご指摘を受け、今回 文字サイズを少し大き目に変更した。皆さんの反応を聞くと、好評価を得ている。									
地域協議会からの意見への対応		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済		
		＜地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）＞ ＜意見への対応＞						対応	未 ・ 済		

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	リーダー育成事業	実施年数	2年目								
事業期間	開始：令和5年度	終了： 年度									
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち <u>7. 地域のリーダーづくり</u>										
目 的 (期待される効果)	まちづくりのリーダーとなる人材を育成する為に、先進地を視察し、取り組みを学ぶと共に知識を深め、スキルアップにつなげる。										
事業内容・手段	(1) 視察研修 実施日：令和6年11月11日(月) 場 所：延岡市民協働まちづくりセンター(延岡市) 内 容：延岡市のまちづくりセンターがこれまで歩んできた実績やまちづくりのあり方について、事務長から講義を受けた。										
事業費	123,070円										
対 象 者	地域住民・宮崎県内外住民										
参加者数 (内訳)	令和5年度 <table><tr><td>年 度</td><td>(1)視察研修</td></tr><tr><td>参加者</td><td>18人</td></tr><tr><td>スタッフ</td><td>3人</td></tr><tr><td>合 計</td><td>21人</td></tr></table>			年 度	(1)視察研修	参加者	18人	スタッフ	3人	合 計	21人
年 度	(1)視察研修										
参加者	18人										
スタッフ	3人										
合 計	21人										
住民の声(アンケートの結果等)	・参加者の声： ①まちづくりについて、新しい観点や活動を学ぶことができた。 ②日頃、会員同士間の交流の場が少ないが、この研修を通じて親睦を深めることができた。										

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	リーダー育成の為に先進地を実際に見聞き・研修する事は、今後の活動に繋がる。	広報	⑤事業の周知	B	B	・田野紙 ・SNS
	②住民の参加	B	B	平日の日程の為、多くの参加が得られなかった。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A	研修の機会を設け、地域リーダーを育成することは大事なことである。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	行政に頼らない住民主体の取り組みを模索することは妥当である。		⑦住民の満足度	B	A	毎年、研修目的・内容を変えて、広く参加を促していきたい。
	④各種団体との連携	A	A	今回、商品開発センターと新たな接点が出来たので、今後に期待できる。	事業継続の必要性		有 ・ 無		
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> .							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）> <意見への対応>						対応	未 ・ 済	
	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）> <意見への対応>						対応	未 ・ 済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	まちづくり協議会運営事業	実施年数	16年目
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度
地域魅力発信 プランとの関連	<u>基本目標</u> 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 自然環境と産業の調和したまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち		
目的 (期待される効果)	住民主体のまちづくり実現のため、役員会や各部会の開催や、広報活動など、田野まちづくり協議会の円滑な運営を行う。		
事業内容・手段	(1) 田野まちづくり協議会における会議、事業等に係る業務 実施日：令和6年4月～令和7年3月 内 容：・総会・役員会・合同部会・各部会等の資料作成、出席 ・各事業に係る資料作成、準備、出席 ・会議・イベント開催連絡、延期・中止連絡 (2) 各種書類作成及び手続き業務 実施日：令和6年4月～令和7年3月 内 容：・事業計画・実績報告等の書類作成、提出 ・市役所等からの調査への回答 (3) 会計に関する業務 実施日：令和6年4月～令和7年3月 内 容：・地域コミュニティ活動交付金活用事業に関すること ・地域まちづくり事務局運営補助金に関すること (4) 会員募集に関する業務 実施日：令和6年4月～令和7年3月 内 容：・まちづくり会員の募集 ・キッズ会員の募集 田野小・七野小・田野中に募集チラシ配布 キッズ会員カードの作成・事業案内等		
事業費	1, 107, 971円		
対象者			
参加者数 (内訳)			
住民の声(アンケートの結果等)			

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	まちづくり協議会の運営、活動を進めるためにも必要である。	広報	⑤事業の周知	A	A	・田野紙 ・各イベントでの写真紹介 ・ポスター掲示
	②住民の参加	A	A	町内外からの問合せ、各種団体からの問い合わせなど対応している。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まちづくり協議会運営をするには必要である。			⑦住民の満足度		
	④各種団体との連携	A	A	各種団体からの会員も多く、各種団体の事業へも参加している。	事業継続の必要性			有 ・ 無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等>							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>				対応		未 ・ 済	
		<意見への対応>							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>				対応		未 ・ 済	
		<意見への対応>							

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	防犯・防災事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	209,963	
2			
3			
4	合計 (A)	209,963	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	59,623	青パトガソリン 20,537円 消耗品費 32,698円 修理代 2,860円 お茶代 3,528円
5	役務費	137,440	青パト任意保険 52,440円 車検費用 85,000円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	公課費	12,900	青パト自動車税
12	合計 (B)	209,963	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	健康ふくしまつり共催事業
-----	--------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	600	
2			
3			
4	合計(A)	600	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	600	弁当代
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	600	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	福祉共催事業
-----	--------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	86,403	
2			
3			
4	合計 (A)	86,403	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	86,403	消耗品費 45,483円 弁当・お茶代 40,920円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	86,403	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	高齢者・認知症サポート支援事業
-----	-----------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	8,160	
2			
3			
4	合計 (A)	8,160	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	8,160	お茶代 8,160円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	8,160	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	介護予防事業
-----	--------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	28,000	
2			
3			
4	合計 (A)	28,000	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	28,000	弁当・お茶代
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	28,000	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	いこいの里山づくり事業
-----	-------------

(1) 収入の部

(単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	175,896	
2			
3			
4	合計 (A)	175,896	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	133,886	消耗品費 11,024円 苗木代 28,146円 燃料費 3,460円 弁当・お茶代 91,256円
5	役務費		
6	委託料	38,230	トイレ汲取り 9,168円 記念植樹標柱代 29,062円
7	使用料及び賃借料	3,780	タクシー借上代 3,780円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	175,896	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	鰐塚山山開き事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	14,754	
2			
3			
4	合計 (A)	14,754	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	14,754	材料費 14,754円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	14,754	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	田野しっちゃんが祭り活性化事業
-----	-----------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	118,365	
2	負担金	51,600	参加者負担金
3			
4	合計 (A)	169,965	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	169,965	弁当・お茶代 28,354円 材料費 141,611円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	169,965	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	田野駅活性化事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	302,963	
2	寄附金	110,000	田中漬物・桜屋旅館
3			
4	合計 (A)	412,963	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金	2,000	点灯式司会料
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	326,883	LED購入費 196,962円 イルミ・短冊材料 32,164円 材料費 46,490円 消耗品費 17,412円 電気料 13,031円 弁当・お茶代 20,824円
5	役務費	20,280	保険 20,280円
6	委託料	63,800	電気架設 63,800円
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	412,963	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	特産品開発事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	13,075	
2			
3			
4	合計 (A)	13,075	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	2,640	消耗品費
5	役務費		
6	委託料	10,435	商品開発委託料
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	13,075	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	田野マルシェ事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	194,446	
2			
3			
4	合計 (A)	194,446	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	73,866	消耗品費 55,026円 材料費 15,816円 弁当・お茶代 3,024円
5	役務費		
6	委託料	75,320	チラシ作成 75,320円
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	42,860	横断幕代
11	公課費	2,400	道路使用許可収入証紙代
12	合計 (B)	194,446	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	イベント共催事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	1,567	
2			
3			
4	合計 (A)	1,567	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	1,567	消耗品費 1,567円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	1,567	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	世代間交流事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	62,824	
2			
3			
4	合計 (A)	62,824	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金	10,000	講師料 10,000円
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	52,824	(消耗品費) 作業用折り畳み机・文具用 カゴ他
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	62,824	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	寺子屋事業
-----	-------

(1) 収入の部

(単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	214,611	
2			
3			
4	合計 (A)	214,611	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金	151,000	講師料 @2,000×56人 (延べ人数) @1,000×39人
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	63,611	消耗品費 5,348円 お茶代 58,263円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	214,611	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	広報事業
-----	------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	349,976	
2	繰越金	347,481	
3			
4	合計(A)	697,457	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	151,307	印刷製本費4回分 146,307円 景品代 5,000円
5	役務費	2,750	振込手数料 2,750円
6	委託料	543,400	ポスティング代 323,400円 ホームページ作製費 220,000円
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	697,457	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	フォトカレンダー事業
-----	------------

(1) 収入の部

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	127,640	
2			
3			
4	合計 (A)	127,640	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	124,500	印刷製本費 104,500円 38円×2,500枚×1.1 賞品代 20,000円
5	役務費	3,140	振込手数料 550円 送料 2,590円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計 (B)	127,640	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	リーダー育成事業
-----	----------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	123,070	
2			
3			
4	合計(A)	123,070	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	16,700	弁当・お茶代 他
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料	106,370	バス賃借料
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	123,070	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第 6 号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	まちづくり協議会運営事業
-----	--------------

(1) 収入の部

(単位: 円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金		
2	繰越金	1, 106, 857	
3	自己資金	1, 114	
4	合計 (A)	1, 107, 971	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内 訳
1	賃金・手当	215, 323	事務局職員3名 215, 323円
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償	33, 000	役員・部会員 @3, 000円×11名=33, 000円
4	需用費	161, 556	消耗品費 161, 556円 (まち協ベスト 他)
5	役務費	138, 833	電話・ネット 107, 418円 切手・はがき 26, 455円 火災保険 4, 960円
6	委託料	116, 160	パソコン設定費等116, 160円
7	使用料及び賃借料	343, 109	コピー機リース 336, 109円 車両賃借料 @500円×14回=7, 000円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	99, 990	パソコン購入 99, 990円
11	積立金		
12	合計 (B)	1, 107, 971	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第7号)

積立金管理状況報告書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

積立金名称	災害時積立金
-------	--------

積立金の収支 (単位：円)

番号	項 目	金 額	備 考
1	前年度までの積立額	598,878	
2	積立額		
3	利息	274	
4	取崩額		
5	合 計	599,152	

積立金名称	
-------	--

積立金の収支 (単位：円)

番号	項 目	金 額	備 考
1	前年度までの積立額		
2	積立額		
3	取崩額		
4	合 計	0	

積立金名称	
-------	--

積立金の収支 (単位：円)

番号	項 目	金 額	備 考
1	前年度までの積立額		
2	積立額		
3	取崩額		
4	合 計	0	

(様式第9号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和 7 年 3 月 26 日

宮 崎 市 長 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市田野町甲2818番地
名 称	田野まちづくり協議会
代 表 者 の 氏 名	会長 松浦 繁盛
電 話 番 号	0985-69-0515

令和6年3月29日付で交付決定のありました地域コミュニティ活動交付金については、決算において 828,687円 の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越しますので届け出ます。

添 付 書 類

令和6年度収支決算（見込）書

令和 6 年度 田野地域まちづくり協議会への意見書 [事業実施報告]

田野地域自治区地域協議会

会長 黒木 光春

令和 6 年度の田野地域自治区の地域まちづくり事業実施報告及び収支決算について、事業計画および収支予算に沿って適正に執行されていたので、承認いたします。

なお、承認に際し、下記の意見がありましたので、対応を検討いただきますようお願いいたします。

記

1. 総括

荒天による中止を除いて、事業計画どおりに事業を実施していただいた。来年度以降は、地域魅力発信プランの内容を引き継いだ、新たな田野地域のプランである「田野まちづくりプラン」に基づき、地域の特色を生かした、田野らしいまちづくりに取り組んでいただきたい。

2. 事業の推進体制

部会員の高齢化および固定化といった課題が挙げられるが、引き続き、事業の削減や見直し、新たな部会員の確保や募集等を行い、円滑に事業が実施できるよう進めていただきたい。

3. 各事業への意見（意見のある事業のみ記載）

事業名	意見
広報事業	広報誌「田野紙」のポスティングによる全戸配布については、他の地域が実施していない田野地域だけの素晴らしい事業である。 また、令和 6 年度には、まちづくり協議会 HP の更新を行い、全面リニューアルされ、とても見やすくなったため、今後は、「田野紙」と「HP」を上手く活用しながら、地域住民に様々な情報を発信していただきたい。

4. その他

特になし